

かかりつけ薬剤師と連携した 問題解決型チーム医療の推進： ハイリスク患者に対する 薬物療法管理支援のための環境整備

山田 清文 氏

名古屋大学医学部附属病院 教授・薬剤部長



1.背景

高度かつ多様化する外来薬物療法を支援するためには、患者ごとの治療計画や指導内容などを医療機関の医療チームと薬局薬剤師(かかりつけ薬剤師)の間で共有・連携することが求められている。

2.目的

名大病院薬剤部では、2015年より高度な薬物療法管理支援が必要な腹膜透析(PD)患者に対して、多職種からなる医療チームとかかりつけ薬剤師がシームレスに連携して問題を解決するチーム医療を構築している。

今回、腹膜透析患者に加え植込型補助人工心臓(VAD)装着患者に対しても質の高い医療を提供するために、医療チームとかかりつけ薬剤師が連携したチーム医療の確立および質の向上を目指し、以下の計画を実施する。

3.計画

対象患者：名大病院のPD患者およびVAD装着患者

かかりつけ薬剤師の選定基準：対象患者のかかりつけ薬剤師またはかかりつけ薬局の薬剤師

方法：

①かかりつけ薬剤師との治療計画連携の確立

以下のPDCAサイクルに基づいた薬物療法支援を実施する。Ⅰ.治療計画を立案(医療チーム)、Ⅱ.治療計画を実施(医療チーム)、Ⅲ.服薬指導依頼せんで治療計画を共有(医療チーム、かかりつけ薬剤師)、Ⅳ.治療計画を継続実施(かかりつけ薬剤師)、Ⅴ.計画の実施状況等を医療チームに報告(かかりつけ薬剤師)。さらに、VAD装着患者に対しては、在宅自己PT-INR測定値を評価し必要に応じて処方変更を医師に提案する。

②ハイリスク外来患者に対する薬物療法管理支援のための環境整備

薬物療法支援相談窓口の設置およびPDやVADの治療法等について、学習会を医療チームと協働で実施する。

4.評価項目

①かかりつけ薬剤師との治療計画連携の確立

対象患者数、医療チームの治療計画立案件数、かかりつけ薬剤師の治療計画立案件数、入院患者件数、ワルファリン服用量変更提案件数

②ハイリスク外来患者に対する薬物療法管理支援のための環境整備

相談窓口への相談件数、学習会参加者数

5.期待される成果

医療機関の医療チームとかかりつけ薬剤師間での治療計画の共有および共同学習会の開催によって、これまでかかりつけ薬剤師にとって不明瞭であった治療目標が明確になる。さらに、薬物療法管理支援の環境を整備することにより、薬局薬剤師の業務内容および薬物療法管理支援の質の向上が期待できる。このPDCAサイクルに基づいた薬物療法管理支援法および服薬指導依頼せんを利用した情報共有法は、他の医療機関との連携においても導入する予定である。